



ミネベア株式会社決算説明会
2005年3月期第3四半期決算

2005 (平成17)年 2月4日

代表取締役 社長執行役員 山本 次男

2005年3月期第3四半期 連結業績

(百万円)	2004/3期		2005/3期		3Q 伸び率	
	3Q	2Q	3Q	2Q	前年同期比	前四半期比
売上高	68,728	75,427	75,180		+9.4%	-0.3%
営業利益	4,531	2,666	4,165		-8.1%	+56.2%
経常利益	3,707	1,903	2,950		-20.4%	+55.0%
税引前利益	3,590	1,454	2,445		-31.9%	+68.2%
純利益	1,622	887	1,575		-2.9%	+77.6%

営業利益は2Qから改善。機械加工品事業の収益性が向上。

2005年2月4日

1



第3四半期は、第2四半期に比較してHDDやPC向けを中心に売上高が伸びましたが、円高による影響約11億円の目減りがあり、売上高はわずかに減少しました。

利益につきましては、第2四半期から改善しました。ピボットアッセンブリーを中心に機械加工品セグメントの利益が大幅に増加、また、電子機器セグメントでもHDDスピンドルモーターの損益改善が進みました。

第3四半期 セグメント別収益

(百万円)	----- 2004/3期 -----				----- 2005/3期 -----			3Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	前年同期比	前四半期比
〔売上高〕									
機械加工品	28,606	27,059	27,434	28,593	28,256	29,094	28,927	+5.4%	-0.6%
ベアリング関連製品	23,959	23,169	23,324	24,152	24,247	24,906	24,491	+5.0%	-1.7%
その他機械加工品	4,646	3,892	4,109	4,442	4,009	4,188	4,436	+8.0%	+5.9%
電子機器	37,883	40,193	41,294	37,511	43,067	46,333	46,254	+12.0%	-0.2%
回転機器	21,458	22,184	22,209	20,890	26,852	27,209	27,350	+23.1%	+0.5%
その他電子機器	16,424	18,011	19,084	16,622	16,216	19,124	18,903	-0.9%	-1.2%
合計	66,489	67,252	68,728	66,105	71,324	75,427	75,180	+9.4%	-0.3%
〔営業利益〕									
機械加工品	4,908	4,270	5,035	5,292	5,082	5,396	5,952	+18.2%	+10.3%
電子機器	△648	937	△503	△1,186	△2,279	△2,731	△1,786	-	-
合計	4,259	5,208	4,531	4,106	2,802	2,666	4,165	-8.1%	+56.2%

2005年2月4日

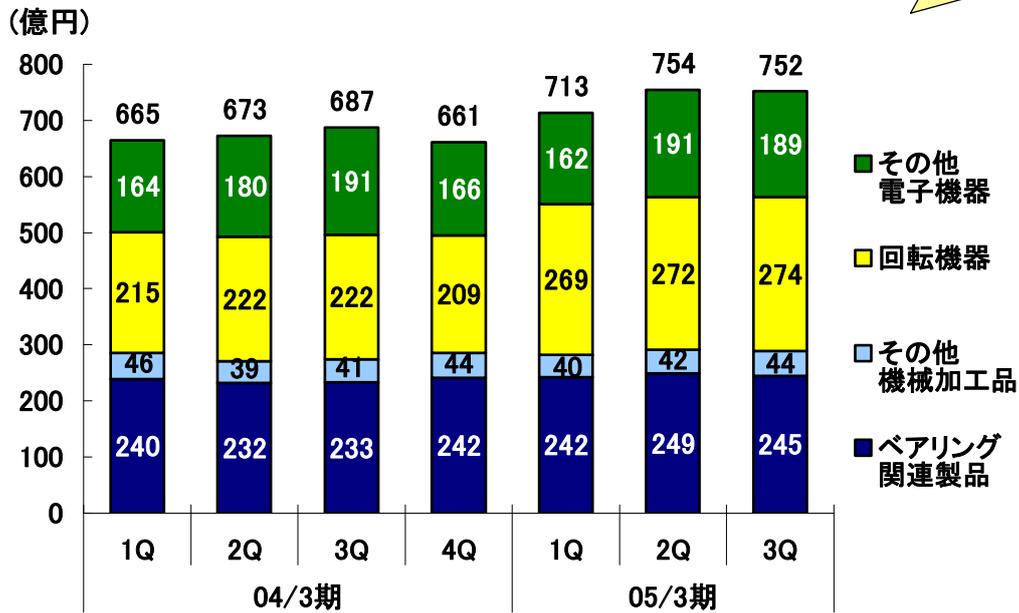
2



セグメント別の売上高と営業利益の内訳です。

セグメント別売上高推移

2Q比では、HDDスピンドルモーター、ファンモーター、キーボードの売上高が増加。
ボールベアリングの売上高が減少。



2005年2月4日

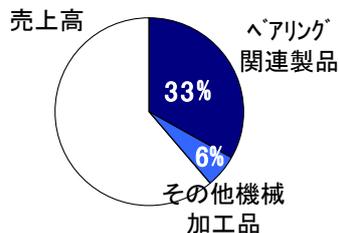
3



第2四半期との比較では、製品個々の増減がありましたが、4部門別ではどの部門もほぼ横ばいでした。

売上高詳細

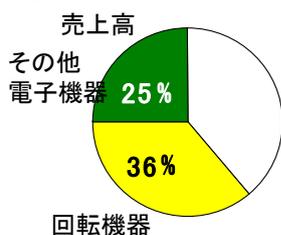
機械加工品セグメント



ベアリング関連製品

- ボールベアリング: (売上高比率 21%) 前四半期(2Q)比 -6%
12月の季節要因、国内需要が軟調
- ロッドエンド・スフェリカルベアリング: (5%) +7% 航空機向けが好調
- ピポットアッセンブリー: (7%) +7% HDD需要増加、小型HDD需要増加

電子機器セグメント



回転機器

- HDDスピンドルモーター: (12%) +8% 3.5" HDD向け販売増加
- ファンモーター: (11%) +8% PC・サーバー向け増加
- ステッピングモーター: (7%) -7% PMモーターの販売減
- ブラシ付DC&振動モーター: (6%) -12% ブラシ付DCモーターの販売減

その他電子機器

- キーボード: (11%) +7% デスク向けが増加、過去最高の水準
- エレクトロデバイス: (7%) -5% 携帯電話の需要低迷で、バックライト伸び悩む
- スピーカー: (4%) -7% PC向け好調だが、オーディオ向けが減少
- 計測機器: (3%) -9% 自動車向けが減少

2005年2月4日

4

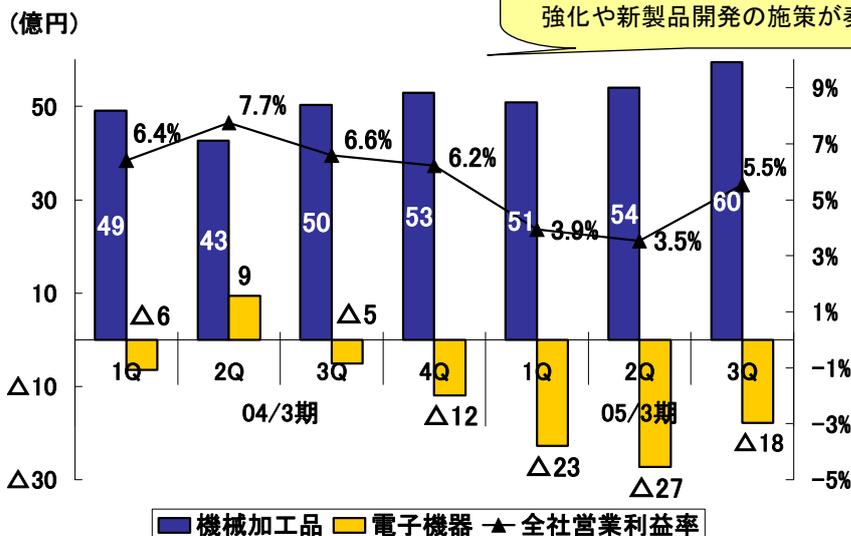


第3四半期はHDDやPC向けに売上高が伸びました。

特に、キーボードの販売が好調で、売上高は過去最高の水準でした。

セグメント別営業利益推移

機械加工品事業の収益性が大幅向上、営業利益率が20%超に。ベアリングを中心としたコスト競争力強化や新製品開発の施策が奏功。



営業利益率	04/3期				05/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
機械加工品	17.2%	15.8%	18.4%	18.5%	18.0%	18.5%	20.6%
電子機器	-1.7%	2.3%	-1.2%	-3.2%	-5.3%	-5.9%	-3.9%
全社	6.4%	7.7%	6.6%	6.2%	3.9%	3.5%	5.5%

各セグメントの営業利益率は外部顧客に対する売上高ベース

2005年2月4日

5



第3四半期はボールベアリングの利益が引き続き高水準でしたが、ピボットアッセンブリーの収益性の改善が顕著に現れました。そのため機械加工品事業の営業利益は60億円、第2四半期から6億円と大幅に増加し、営業利益率は20%を超える水準となりました。

第3四半期のピボットアッセンブリーの販売数量は好調なHDDの需要を背景に第2四半期から10%近く増えました。第2四半期には10%に満たなかった1.8インチ以下HDD用のピボットアッセンブリーは、第3四半期には全体の15%近くを占めました。

小型HDD用のピボットアッセンブリーは、当社が得意とする圧倒的優位なミニチュアの分野です。昨年後半から極小サイズのベアリングの生産能力と、ピボットの組立自動化ラインの設置を増やし、コストダウンが進んでおり、今後の需要増加にも十分に対応できます。

航空機向けのロッドエンドベアリングの売上高は増加傾向が続いており、収益性もさらに向上してきました。2005年から増加に転じるといわれている需要への対応とコストダウンを図っています。

電子機器事業につきましては、第3四半期は18億円の営業損失となりました。業績改善が課題となっている3事業と、それ以外の事業に分けて次のスライドで述べます。

営業利益分析

2Qとの比較

売上高 : 主要製品は数量増加だが、販売単価下落と円高による影響で減収。

営業利益 : 販売単価下落と原材料費上昇の影響があったが、数量増効果、原価低減と販管費削減の効果で増益。

営業利益内訳

(億円)	2Q実績	3Q実績	2Q比	対計画
機械加工品	54 →	60	+ 6	+ 2
電子機器	△ 27 →	△ 18	+ 9	- 3
3事業	△ 34 →	△ 25	+ 9	- 4
3事業以外	7 →	7	+ 0	+ 1
合計	27 →	42	+ 15	- 1

機械加工品

ピボットアセンブリーの採算性が計画を上回って向上。ホールベアリングとロッドエンドも好調。

電子機器

3事業のうちHDDスピンドルモーターの損益が改善、しかしMMMCとキーボードが計画を下回る。

2QにMMMCでロイヤリティ半年分を一括計上

→ 3Q、3事業は2Q比
実質3億円改善

2005年2月4日

7

 Minebea

第3四半期の営業利益の状況は上記の通りです。

HDDスピンドルモーター

◆ コスト削減を推進

- 3Qから成果
- 部品製造コストの低減
- 販売単価は下げ止まり感

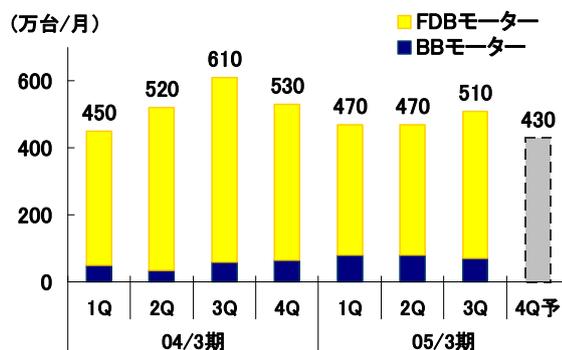
◆ 新FDBユニット生産ライン建設中

- バンパイン(タイ)工場に2月完成予定

◆ ROFタイプ 3.5”HDD用FDBモーター 2.5”HDD用FDBモーター

- 両製品とも、承認活動が順調に進展
- 2005年4-6月期中に量産納入開始見込み

HDDスピンドルモーター販売数量推移・見込み



2005年2月4日

8



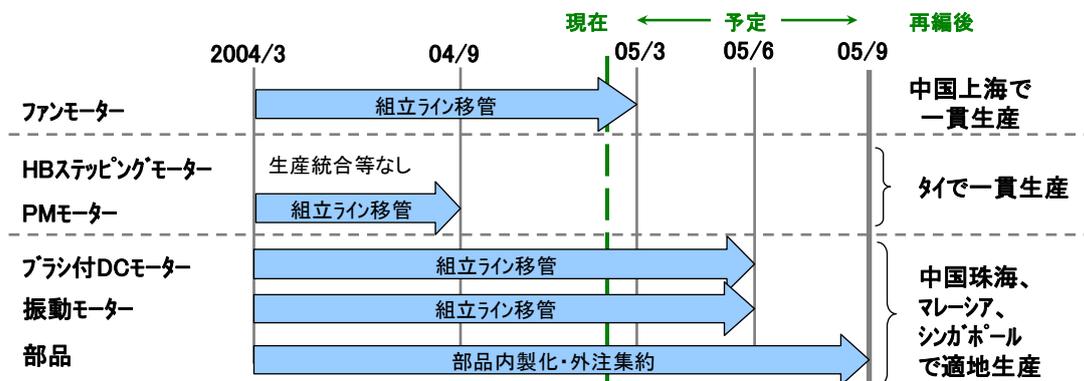
HDDスピンドルモーター事業の第4四半期の販売数量は減少する見込みですが、原価低減が進展していることと販売単価が比較的落ち着いていることから、下期計画として掲げている上期比10億円の損益改善は達成できる予定です。

FDBユニットの新しい生産ラインがタイのバンパイン工場に2月に完成予定です。FDBユニットの製造組織をベアリング部門に移し、ROFなどの新型FDBユニットの開発とコスト削減に取り組んでいます。

ROF型FDBモーターと2.5インチHDD用FDBモーターは共に承認活動が順調に進んでいます。

ミネベア・松下モータ合弁事業

◆ 製造統合 ～ 生産拠点の最適化



来期上期に再編が終了。本格的な改善効果は来期下期から。

◆ ロイヤリティ

見直しを継続中。

2005年2月4日

9



ミネベア・松下モータ合弁事業の製造統合は徐々に進んでいます。

PMモーターの生産組立ライン移管は昨年終了し、ファンモーターの組立ラインの移管は3月末までに終了予定です。

ブラシ付DCモーターと振動モーターの部品内製化と外注集約を含めた製造統合は今年9月までかかりますが、再編終了後には最適な生産体制が整い、来期下期以降の利益改善を期待しています。

両親会社に対するロイヤリティ支払いの見直しについては、引き続き実施しています。

キーボード

- ◆ 販売は過去最高の水準
 - デスク用シェア拡大。
- ◆ 上海SSTへの生産移管を引き続き実施
 - ノート用の移管作業をスタート。
- ◆ 製造原価の低減
 - モールド部品の内製比率の引き上げに注力。
- ◆ 原材料価格高騰への対応
 - 販売価格値上げ交渉を実施中。

2005年2月4日

10



キーボード事業の第4四半期は、需要の季節的調整があるなかでデスクトップ向けのシェア増加により高い販売水準が続く見込みです。

SSTへの生産移管は、来期上期末には完了する予定です。また、モールド部品の内製化を含め、全力でコストダウンに取り組んでいます。さらに、原材料価格の高騰の影響を吸収するため追加のコスト削減方法を模索する一方で、顧客に販売価格の見直しを交渉しています。

ボールベアリング

◆ 高水準な収益性を維持

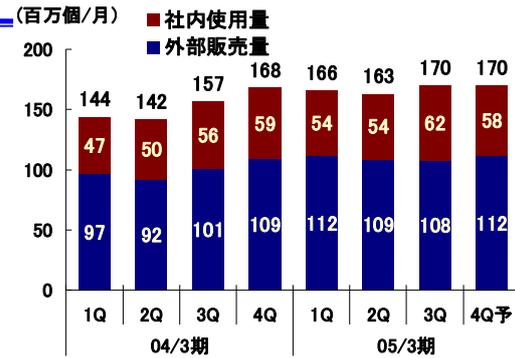
- ピボットアッセンブリーとの相乗効果を実現。
- 原材料価格上昇と円高及びタイヤパーツ高の影響を生産性向上で吸収。

◆ 3月生産販売1億8,000万個目標

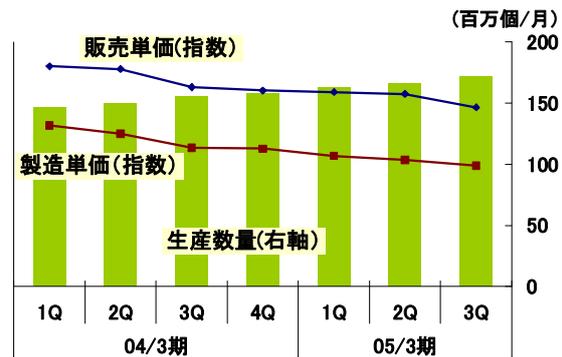
小型HDD用ピボットアッセンブリー増産への対応

- 1.8” & 1.0”HDD用ピボットアッセンブリー向けのベアリングの生産を増強。

ミニチュア・小径ボールベアリング 販売数量推移



ミニチュア・小径ボールベアリング 販売・製造単価推移



2005年2月4日

11



ボールベアリング事業の第4四半期は、需要見通しは不透明なところがありますが、従来からの計画でありました1億8,000万個は、3月の目標として変えていません。

ピボットアッセンブリーの第4四半期は量の多い3.5”デスクトップHDD向けが減るため全体量は若干減りますが、小型HDD用については第4四半期も好調です。

第3四半期 用途別売上高・地域別売上高

2Q比、PC向けにキーボードとHDDスピンドルモーターが増加。
家電機器向けにホールベアリングとブラシ付DCモーター、
自動車向けにスピーカーが減少。

用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信 機器(OA)	PC及び 周辺機器	モーター	その他	合計
売上高比率	9.5%	8.4%	8.8%	16.0%	39.7%	5.0%	12.6%	100.0%
前四半期比 伸び率(2Q比)	-10.0%	+2.0%	-15.6%	+3.1%	+4.0%	+2.3%	+0.5%	-0.3%
前年同期比 伸び率(前年度3Q比)	+36.8%	+6.8%	+16.7%	+53.4%	-8.6%	+6.0%	+19.9%	+9.4%

地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	北米・ 南米	欧州	合計
売上高比率	25.3%	49.1%	15.4%	10.3%	100.0%
前四半期比 伸び率(2Q比)	-5.3%	+3.7%	-8.8%	+8.5%	-0.3%
前年同期比 伸び率(前年度3Q比)	+7.7%	+17.7%	-2.4%	-2.1%	+9.4%

為替の影響を除くと、
アジアは2Q比 7%増、
北米・南米 6%減。
中華圏の売上高
現地通貨ベース
2Q比 10%増。

2005年2月4日

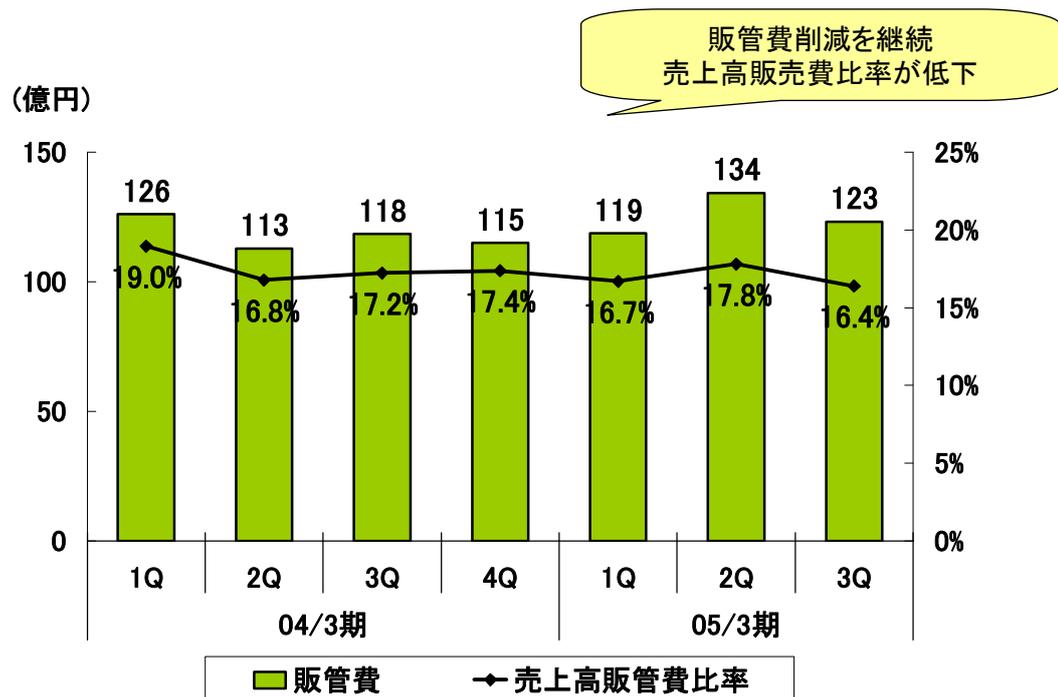
12

 Minebea

第3四半期の用途別の売上高は、第2四半期に比較してPC向け及び関連分野が伸びました。

地域別では日本国内の売上高が景気減速により減少しました。アジア、なかでも中華圏は引き続き大幅に伸長しました。

販管費



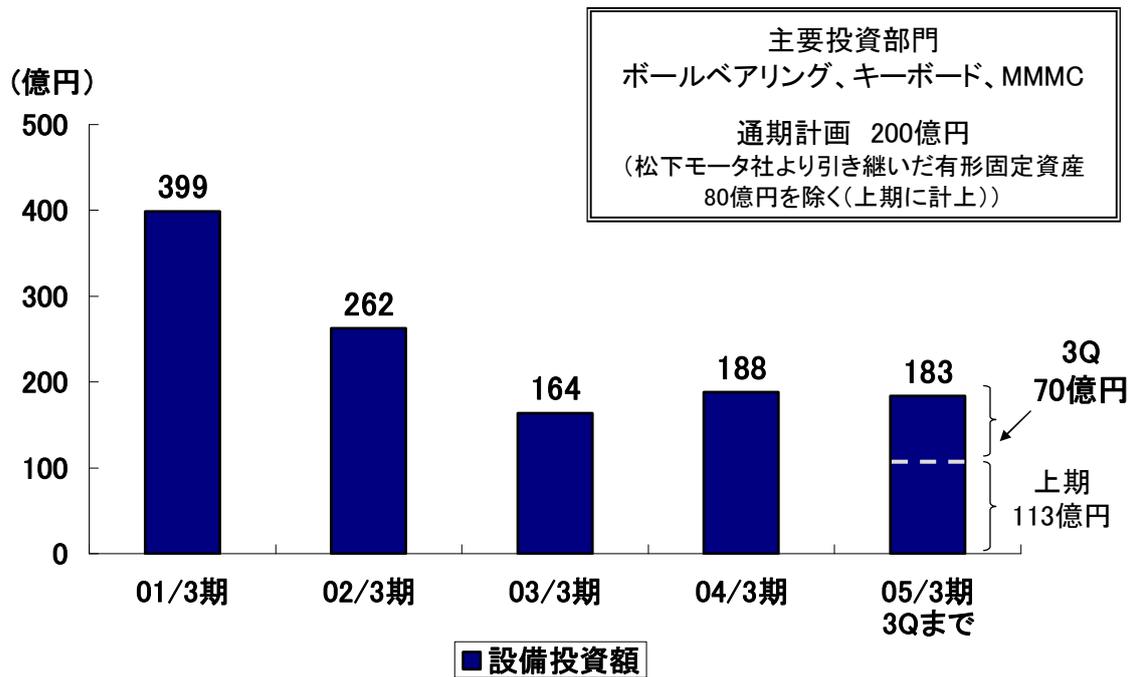
2005年2月4日

13



第3四半期の販管費は123億円、売上高に対する比率は16.4%に低下しました。引き続き全ての項目において削減に努めています。

設備投資額



2005年2月4日

14

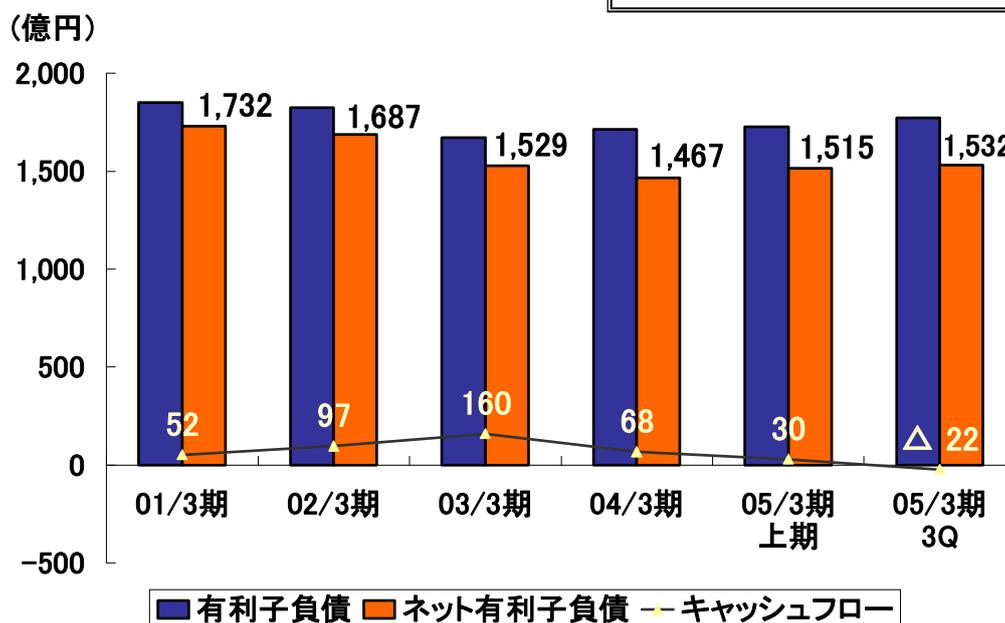


第3四半期の設備投資額は、70億円でした。

主に、ボールベアリングのボールや組立ライン、FDBユニットの新工場、ピボットアセンブリーの組立、キーボードの設備機械と金型への投資を実施しました。

有利子負債

3月末までに50億円強削減見込み



キャッシュフロー = 営業活動CF - 投資活動CF

2005年2月4日

15



第3四半期末のネット有利子負債は1,532億円であり、上期末より17億円増加しました。

第4四半期中に50億円強を削減し、3月末は1,500億円以下を予定しています。

減損会計の影響について

- 来期(2006年3月期)から減損会計を導入。
- 今期末、遊休有形固定資産の減損処理を前倒しで実施
→ 特別損失約10億円を計上予定。

遊休有形固定資産合計	39億円
うち土地・建物	38億円
うち構築物・機械及び装置・工具器具等	1億円
土地・建物 鑑定評価額	29億円
2005年3月末減損損失計上額見込み	約10億円

注:2004年12月時の監査評価をもとに試算。
今後の評価額により減損額が変更する可能性あり。

2005年2月4日

16



現在、当社グループの遊休有形固定資産及び賃貸不動産は、連結ベースで総額39億円あります。減損率が50%に達していないものも含め、簿価と鑑定評価額の差が約10億円あります。

2006年3月期からの減損会計導入にあたり、今期末に前倒しで減損処理を実施することを考えています。特別損失として計上する減損損失は約10億円と試算しています。

第4四半期の業績について

◆ 通期業績予想は変更なし

営業利益内訳

(億円)	3Q実績	4Q予定	下期予定
機械加工品	60	55	115
電子機器	△ 18	△ 12	△ 30
合計	42	43	85

2005年2月4日

17



通期の業績予想は変更しません。

機械加工品セグメントと電子機器セグメント共に昨年11月に発表した利益予想を目標としています。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2005年2月4日

18

